令和５年度　学力向上プラン

学校名　　中央区立明石小学校

学校の教育目標

○進んで学びよく考える子	○力を合わせやりぬく子
○やさしく思いやりのある子	○健康でたくましい子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

○基礎基本の定着（明石スタンダードに基づく学習規律、朝学習、夕やけ教室）
○思考力・判断力・表現力等の育成（児童主体の学習、言語活動を重視した授業）
○毎時間の授業の充実（分かる授業、できる授業、楽しい授業）

令和４年度「学習力サポートテスト」や令和４年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	○「令和４年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を４年は15ポイント、５年は11.7ポイント、６年は5.5ポイント上回っている。４年は5.4ポイント、５年は2.2ポイント区の平均も上回っている。 ▲言葉の学習や漢字を書くことについて、目標値を下回り、課題のある児童がいる。 ▲「話すこと・聞くこと」に課題がある。最後まで話を聞いて質問したり、自分の意見を再構築したりする力が弱い。	○授業における自主的な学習態度と、家庭での学習習慣が身に付いている。 ○朝の読書タイムや年２回の読書旬間の充実により、読書に親しむ習慣が身に付いている。 ▲習った漢字の反復練習や、習った漢字の日常場面での活用が足りない。 ▲コロナ禍でマスク生活が続いたことも影響し、自分の考えを相手に伝わるようにはっきり話す習慣が身に付いていない。
算数・数学	○「令和４年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を４年は13.5ポイント、５年は19.8ポイント、６年は10.4ポイント上回っている。４年は3.7ポイント、５年は6.2ポイント、６年は3.5ポイント区の平均も上回っている。 ▲自分の考えを説明したり、発展問題に苦手意識を感じたりする児童がいる。	○習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習の徹底により、個に応じた指導の効果が表れている。 ○授業開始の３分間、単元に関係する計算テストを継続して行うことにより、基本的な計算力が定着している。 ▲文章問題を読み取り、読み取ったことを整理して線分図や図に表したり、根拠の説明をノートに記述したりするなどの指導が不足している。

社　会	○「令和４年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を４年は12.2ポイント、５年は14.4ポイント、６年は2.6ポイント上回っている。４年は4.7ポイント、５年は5.4ポイント区の平均も上回っている。 ▲資料を適切に読み取り、資料から考えたり、調べたことを既存の知識と比較、関連付けて思考したりすることに課題がある。	○実際に見学をしたり、タブレットを活用して調べたりする等、社会的事象に関心をもち、意欲的に学習に取り組めている。 ▲資料の読み取り方や、調べたことをまとめる具体的な方法の指導が十分できていない。
理　科	○「令和４年度学習力サポートテスト」において、正答率は全国の平均を４年は12.6ポイント、５年は12.2ポイント６年は1.1ポイント全国の平均を上回っている。４年は5.7ポイント、５年は4.7ポイント区の平均を上回っている。 ▲選択で解答する問題に比べ、短答や記述で解答する問題の正答率がやや低い。特に６年は、短答で解答する問題が0.9ポイント、記述で解答する問題が３ポイント全国の平均を下回り、課題がある。	○校内研究を通して、興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や、環境整備に努め、実験･観察を計画的かつ確実に行ってきた成果が見られる。 ▲実験･観察の過程や結果から考察したことを記述するなど、思考を深めるノート指導が十分できていない。
英　語	○「令和４年度学習力サポートテスト」において、６年は全国の平均を6.7ポイント、区の平均を2.4ポイント上回っている。 ○英語に関心をもち、楽しみながら学習に取り組み、自分の思いを伝えたり、聞き取ったりするコミュニケーション力は育っている。 ▲文字認識が不十分で、正しく書く力に課題がある。４線に正しくアルファベットが書けない児童がいる。	○ＡＬＴと打ち合わせを行い、連携を図りながら、授業を進めることができている。 ▲アルファベットの学習を取り入れるなど、大文字、小文字が正確に書けるための学習時間が少ない。
体育・ 保健体育	○５０ｍ走は、全国および区の平均を上回っている学年が多い。 ▲低学年の握力、長座体前屈（体の柔らかさ）に課題がある。 ▲全学年でソフトボール投げに課題がある。	○マイスクールスポーツの効果として巧緻性の高まりが感じられる。 ○休み時間に積極的に身体を動かしていることが影響している。 ▲体つくり運動で継続して体の柔軟性を高める運動場面が少ない。 ▲日頃から、ボールを投げる機会が少ない。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を１０ポイント以上、上回るようにする。 ○言葉の学習や漢字を書くことについて、全ての実施学年で、全国の平均を上回るようにする。
	算数･数学	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を１５ポイント以上、上回るようにする。 ○文章問題を解くことについて、全ての実施学年で、全国の平均を上回るようにする。
	社会	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を１０ポイント以上、上回るようにする。 ○資料活用能力を図る問題について、全ての実施学年で、全国の平均を上回るようにする。
	理科	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で、全国の平均を１０ポイント以上、上回るようにする。 ○全ての実施学年で、短答や記述で解答する問題の正答率が、選択で解答する問題の正答率と同じになるようにする。
	英語	○「令和５年度学習力サポートテスト」において、６学年で、全国の平均を１０ポイント以上上回るようにする。 ○「アルファベットの書き」の問題について、全国の平均を上回るようにする。
	体育・保健体育	○「全国新体力テスト」において、男子は長座体前屈、女子はソフトボール投げが全国の平均を上回るようにする。
②授業改善		・年間を通じて、児童の主体的、対話的で深い学びを促す授業づくりを実践する。 ・年間を通じて、考えたことをノートに分かりやすく表現するノート指導の徹底を図る。 ・タブレット端末や実物投影機を始めとする ICT 機器を効果的に活用した授業を展開し、個別学習、グループ学習、一斉学習で個の学びが深まる授業展開の工夫を行う。
③家庭との連携		・４月、７月、１２月の３回の個人面談、年間２回の保護者会等を活用し、家庭と十分に連絡を取り合って、家庭学習を確実に行うようにするとともにその定着を図る。
④体力向上		・マイスクールスポーツである「なわとび（短縄・長縄）を活用する。 ・中休みや昼休みに外遊び時間の確保をする。 ・体育学習発表会や体力向上週間の取り組みを充実させる。 ・体育の授業や休み時間にボールを投げる時間を充実させる。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	・話の聞き方や発表の仕方の約束（明石スタンダード）の徹底を図る。 ・毎週火曜日の朝読書の時間や図書の時間では、物語または小説の読書とし、まとまった文章に親しませる。 ・年間２回の読書旬間を実施し、親子で読書に親しむ機会を設定する。 ・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、漢字の練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。
算数・数学	・習熟度別少人数指導や「放課後の個別指導」での補充学習を徹底させ、個に応じた指導を行う。 ・授業開始の３分間、計算練習を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。 ・朝学習の時間に、タブレット端末やドリル等を活用し、計算練習に取り組ませ、基礎学力の定着を図る。
社会	・事象との出合いを工夫し、問題解決的な学習過程を取り入れる。 ・実際に見学をしたり、タブレットを効果的に活用したりして、意欲的に調べ学習ができるように工夫する。 ・資料の読み取り方を丁寧に指導したり、資料を活用した話し合いを行ったりして、自分の考えや根拠を記述するノートづくりができるように指導する。
理科	・興味・関心をもって理科の学習に取り組めるような単元開発や環境整備を行う。 ・既習の実験・観察の過程や結果を根拠として、予想を立てたり、実験・観察の過程や結果から考察したことを記述したりするなど、思考を深めるノートづくりができるようにする。 ・単元の終末に、学んだことが活用できるように単元計画を工夫する。
英語	・ＡＬＴと事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業を進めることができるようにする。 ・アルファベットの学習をしっかり行い、４線を正しく使って、大文字や小文字を書くことを授業の中で意図的に取り入れるようにする。 ・提示する絵カードに文字を入れ、文字に親しむことができるように工夫する。
体育・保健体育	・マイスクールスポーツである短なわ跳びや長なわ跳びを継続的に取り組む。 ・体つくり運動で柔軟性を高めたり、ゲームの中でボールを投げる運動を意図的に行ったりするようにする。

②授業改善	
取組Ⅰ	・学習導入時の教材の提示方法や発問を工夫し、児童の「知りたい」「考えたい」という思いを引き出す主体的な授業づくりを目指す。 ・小グループでの話し合いを通して、さらに個の思考が深まる授業づくりを目指す。
取組Ⅱ	・自分の思考や友達の意見を取り入れたノートづくりができるように指導する。 ・授業場面に応じて、ノートとタブレット端末を効果的に使い分けて活用できるようにする。 ・タブレット端末や実物投影機等の ICT 機器を積極的に活用し、授業の効率化や知識の定着を図ることができるようにする。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	・４月、７月、１２月に個人面談を実施し、児童の学習の状況を把握したり伝えたりし、家庭との連携を図る。
取組Ⅱ	・学校便りや学年便り、保護者会等を活用し、家庭との連携を深めると共に、タブレット端末を活用し、Google の Class room やドリルパークでの家庭学習の配信を定期的に行い、家庭学習の習慣を身に付けさせる。

④体力向上	
取組Ⅰ	・体育的行事委員会を中心に長なわ跳びや短なわ跳びへの取り組みを計画し、年間を通して取り組むようにする。
取組Ⅱ	・体育学習発表会や体力向上週間に向けて学習カードや動画を作成し、児童一人一人がめあてをもち意欲的に取り組めるようにする。